

平成29年度 学校だより



平成29年5月16日(火)  
御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

No.2

E-mail:

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

## 子どもに吸わせたい空気

私は何気なく吸ってきた家庭や学校・地域の空気が、今の自分を育ててきたのだろうと思います。この空気を意識するようになったのは、自分が親になったときでした。我が子たちは全くよく親の言葉や行動を見ていました。そして、それをよくまねしていました。だから、「子は親の鏡」と言われるのも当たり前のことだと思いました。そう考えたとき、子育てで注意しなければいけないこととして、親が何を話しているか、何をしているかが大切なんだと思いました。

我が娘が2歳くらいの頃だったでしょうか。娘の前で夫婦喧嘩をしたことがありました。娘にはとても印象深く残ったようで、事あるごとに「お父さんはお母さんと喧嘩をした」と言われるようになり、とても反省したことを覚えています。それ以来、子どもの前では、けんかは一切しないようになりました。これは親が子どもから教えられたことの悪い例です。また、子どもが小さい頃は、よく公園に遊びにつれていきました。その時、私は何気なく公園に落ちているゴミが気になり拾っていると、子どもたちも拾っていました。思わず「ありがとう」と言いながら心が温まるのを感じました。言葉ではなく行動で示すことが何より大切だと学んだ場面でした。

さて、子どもたちが生活している場所にはさまざまな空気が流れています。あなたはどんな空気を吸わせてあげたいですか。あなたが吸わせたい空気をあなた自らが流さないと子どもの行動や態度として表れません。片付けのできる子を願うなら、片付けられた部屋を意識して作ることです。優しい子を願うなら、あなたがいつも優しい言葉や行動をすることです。誰とでも仲良くできる子を願うなら、あなたが近所の人と分け隔てなくお付き合いすることです。

このようにすることの大切さを訴えた人がいます。それは、戦艦大和艦長の山本五十六氏です。『やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ』と言っています。たいていの人は、「やって見せ」がぬけて、「言って聞かせ」から子育てすることが多いのです。思うように育たないと悩んでいる方は、きっと「やってみせ」の部分の空気が足りないのだと思います。子どもを叱る前に我が身を振り返ることをしていると、いつしか子どもの吸う空気が素敵な空気変わっているのではないかと思います。



文責 (竹原一人)